

老病御書

弘安四年十一月

六〇歳

追伸

老病の上、不食氣ふじきげいまだ心よからざるゆへに、法門なんどもかきつけて申さずして、
さてはてん事なげき入って候。又三嶋の左衛門次郎がもとにて法門伝へて候ひけるが始
中終かきつけて給ひ候はん。其れならずいつくにても候へ、法門を見候へば心のなくさ
み候ぞ。